

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3491500785		
法人名	医療法人社団 ひがしの会		
事業所名	グループホームえんじゅ千織り庵		
所在地	広島県福山市王子町2丁目4-17		
自己評価作成日	平成25年12月5日	評価結果市町村受理日	平成26年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成25年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームを家庭の延長ととらえ、介護施設らしくない環境を意識しています。利用者の方々と職員、またご家族様が家族のように信頼関係を築き安心していただけるよう心がけています。利用者様の意思を尊重し、ケアにあたっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内にあるえんじゅ図書館には職員が自由に常に学習出来る書物が備えられている。プロ意識を高め心の文化を養う取り組みは素晴らしいと感じた。共有の場は広々として清潔に保たれている。近隣との交流について地域行事に積極的に参加し、関係づくりに努め年々交流が深まり、千織り庵祭にも地域住民の参加が得られた。法人全体の研修も多岐にわたり実施され、スキルアップに繋げると共に、職員が理念に沿った目標を立て、それに向かって日々努力されている。利用者本位のケアに心がけ、管理者は職員との連携をスムーズにとり現場の状況、雰囲気等を常に把握して理念を活かし双方のバランスをとる努力をしまるく落ち着いた雰囲気の事業所である。。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コンセプトを「千の想いを紡ぎ織り上げ、笑顔と温かさで包み込む家」とし、利用者のみならずたくさんの方が集まり、温かい空間となるよう取り組んでいます。	玄関の見えやすい場所に掲示するとともに法人理念を基に職員ひとりひとりが年間目標を立て実践に繋げている。年度末には個々に評価し次に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の実施のほか、催しへの呼びかけ、地域行事への参加などで交流している。	事業所の夏祭りの呼びかけに地域の方がたくさん参加され、また近隣の方が野菜を持ってきてくださるなど地域との関係が出来ている。深津幼稚園児が訪問して利用者を楽しませてくれたり地域行事に参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でのテーマなどに「認知症」を盛り込んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催しているものの、地域の方の参加がまだまだ少ない。	併設の事業所と合同で定期的開催し日程も決めている。家族をはじめ地域の方また役員の方々、公民館館長等の参加の下毎回議題を決め意見交換など活発に行っている。イラスト入り資料を添えた勉強会も実施している。	開催日程を変更するなどして行政や包括センターに参加案内を呼びかけ、情報収集を得るなどし協力関係を築くよう一歩すすんだ取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば市役所介護保険課を訪ね、確認を行っている。	運営推進会議が日曜日で行政からの参加は無理だが、出向いて行き問題点の相談にのってもらい協力関係は出来ている。ケアの面は包括センターに質問し理解認識している。得た知識は職員で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 拘束に当たる行為や言葉かけについても、研修等で意識強化に努める。	身体拘束は行っていない。全体会議での研修を通して身体拘束、薬に関すること、言葉かけの問題等色々な場面の拘束を知り、職員の意識に根付かせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてのマニュアルを整備し、虐待防止への理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、個々で調べるにとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者あるいはご家族に分かりやすく十分な説明を行い、利用を開始していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の設置と公的な窓口の紹介も行っている。また、玄関には意見箱の設置をし、意見の汲み取りに取り組んでいる。	家族からの要望などは面会時、モニタリングやケアプラン作成時に聞き取っている。また年1回事業所から利用者にアンケートも行っている。寄せられた内容は集約され家族に伝えられている。意見や指摘については職員は周知すると共に業務に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月最低2回の会議にてさまざまな情報交換と意見交換を行っている。	個人面談は年3回行い、個人の年間目標進捗状況や、達成度を聞いたりして話をしている。職員の日常で困っていること、業務改善への意見は毎月の会議で聞いて、運営に取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を設け、話をしていることに加え、目標管理シートによる個人の目標に向けた取り組む環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	該当者には随時研修を受けさせている。また、入職時には全職員研修を受け、現場に入る仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会では、各事業所より参加あり職員同士の交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や契約時等で必要なアセスメントをとっており、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や契約時等で必要なアセスメントをとっており、不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時の必要性に応じ、サービスを変化させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様お一人おひとりの想いや出来る事(役割)を大切に、共に生活し・楽しく過ごす事の出来る環境作りに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細やかな報告や相談を行う事で、入居されてからもご家族との絆が切れないように配慮し、新たな介護の始まりと意識して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係を保つ為、面会をお願いしたり、また、希望要望があれば、こちらから自宅等へ訪問するよう心がけている。	地域行事に参加して知り合いに会ったり、また感染症等にも気を遣いながら面会の方の受け入れもしている。家族には近況報告や案内を送る時写真も添えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の席の配慮や関わりあいを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケースによっては利用中止となっても本人様、ご家族様の経過を追い、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回アセスメントにて出来る限り希望を伺っている。また、その後も日常の中で希望や意向を取り入れ、計画書を作成している。	入浴などで1対1になる時、会話の中で気持ちをくみ取るようにしている。家族からの聞き取りを行い利用者の要望を聞くようにしている。困難な人や言葉の少ない人には日々の表情から感じ取っている。孤立のない取り組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の経緯を可能な範囲で聞き取り、周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のペースに合わせ、ケアできるよう、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々にあった計画を検討し、作成している。	アセスメントを基に本人、家族からの要望を聴き担当者会議で話し合い職員の見解も反映させて作成している。計画は職員に周知し、家族の確認を得ている。毎月モニタリングを実施し個々にあわせ定期的に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をとっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせ、可能な限り対応し、柔軟なサービス提供に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や近隣のこどもたちとの関わりを行うことで利用者にも喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所での変化や異常があれば、ご家族に伝え、連携の訪問看護、主治医に報告している。	利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の支援が来ている。利用者や家族の意向を大切にしている日々の状態など随時報告し連携を図り信頼関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があれば早期に訪問看護に報告し、判断を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は関係者と連絡を密に取り、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応の説明はケースに応じて早い段階で説明し、取り組むことを心がけている。	重度化した場合入院される利用者が今は多いが看取りの支援を希望する利用者にはその都度十分な話し合いを行い看取りの指針に沿いながら取り組むよう心がけている。訪問看護の利用や主治医との連携を図り勉強会も行うなど職員の看取りに対する体制づくりが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や随時の指導により対応の仕方を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の実施。地域との非常災害時の連携体制は運営推進会議などを活用しながら検討中です。	年2回火元を確認して避難訓練を行っている。内1回は夜間想定である。出火、通報、避難の担当を決め避難場所の確保も徹底している。災害時の連絡網を作成し避難経路も事務所に掲示している。防災設備の点検も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。高齢者虐待などの勉強会を活用しながら、日常の振返りのきっかけにしている。	事業所独自の資料を作成し実例を取り上げながら勉強会を行っていて日々振り返り反省することで意識の向上に努めている。尊敬の念を持って接し利用者一人ひとりと信頼関係を築くよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けでなく極力自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気持ちを最優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や整髪など最低限の支援は出来ているが、それ以上のおしゃれに関しては特にしていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや準備などして下さる方がおられる。その他、野菜の皮むきやもやしの根とりなど皆で一緒にする作業も、時折実施できている。	お膳に小鉢が置かれていて品数も多く食事への関心を引き起こすような工夫がされている。準備や盛り付けなど利用者に合った支援を取り入れていて利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量には特に注意し、食欲が落ちている方などへの工夫やご家族様への報告を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、ハミガキを行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄への取り組みに関してはまだ薄いところがあり、排泄自立への取り組みを強化していく必要がある。	利用者のチェック表を活用しサインやパターンを把握し排泄を促すよう声かけを行っている。水分摂取量も把握していて排泄がスムーズに行えるよう支援している。夜間のトイレ誘導も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態の把握はしているが、食べ物の工夫などの取り組みまで出来ていない。水分を多く取っていただくなどの対応にとどまっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけを行いながら、本人の希望にて入浴に誘うよう努めているが、時間帯がある程度決まっている。	入浴は週3回となっているが利用者の希望に沿って臨機応変に行っている。入浴拒否の方は声かけを行いタイミングを見ながら支援している。状態に応じて足浴やシャワー浴の対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理とその作用・用法等の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った対応を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常の中で、天気の良い日には散歩に出かけている。	事業所近くに公園があり日々の散歩を行うことで気分転換を図っている。また利用者にも楽しんでもらえるよう行事計画を立てて花見や祭りや菊花展など全員で参加できるよう支援に努めている。利用者の希望に合わせて化粧品やコンサートに同行する支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使用に関してはこれまでケースが少なく、大半の方が持参されていない。該当ケースが出てくれば支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話は状況を判断し、掛けていただいている。手紙の要望があれば、支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮している。	廊下も食堂も休憩の場も無駄な物が置いてない。良く片付いた家である。水回りもきれいで浴室は温度の管理が出来ていて利用者は安心した生活が出来ている。共有の場から見える外の風景は心穏やかになる庭があり庭木もきれいだった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮をしたり、希望があれば空いている居室を利用し、個人の時間を持っていただけ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等は本人様が使いやすいようレイアウトしていただき、極力馴染みのものを持参していただくようお願いしている。	家族との写真や得意な書や手芸などの思いで深い品々が飾られていて、落ち着いた居室であった。換気が充分にされて寝具も、家具もきちんとかたずいていた。暮らしやすさが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が出来る限り行われるよう環境(設備)にも配慮している。		